

さて、今月はお月見のお話をします。
今年の仲秋の名月は十月四日です。

お月様をよく見ると、兎の姿をした影が見えるでしょ。今日は「どうして月に兎の姿が見えるのか」というお話をお願いします。



「昔々 猿と兎と狐とが 仲良く助け合いながら野山を駆け巡って遊んでおりました。それを空の上から見ていた神様が、この三匹がどのくらい 優しい心を持っているのか知りたいたいと思われました。そこで、神様は年とつたみすばらしいお爺さんに姿を変えて、天から降りてきました。お腹をすかして、今にも死にそうなお爺さんが、よろめきながら、すわりこんで三匹に言いました。『私はもう何日も何も食べていないので、お腹が空いて、もう歩くこともできません。どうか、何か食べる物を下さいませんか。』すると、『おやすいことです』と猿はすぐに林から木の実を拾ってきました。『可哀相なお爺さん』と言って、狐は川原より魚をとっておじいさんあげました。ところが兎は、あたりをピョンピョン跳んで探しても探してもなあんにも見つけれませんでした。『君はお爺さんが死にそうなのに、何にもしてあげなくて冷たいやつだな』と猿や狐に言われ、兎は考えました。『そうだ。お猿さん柴をかってきてください』『狐さん、これに火をつけてください』二人が柴に火をつけると、兎はお爺さんに言いました。『私は力が無く、何一つ気の毒なお爺さんに食べ物あげることができず、恥ずかしく思います。ですから、どうぞ、私の体を食べてください』というなり、パツと燃え盛る焚火の中に飛び込みました。』あ

あ、兎さん』お爺さんは、天を仰いでうち嘆き、土に倒れて泣きじゃくり、神様の姿に戻って言いました。『三人の友達は、みんな心が優しく、誰が劣るということはないけれど、ことに兎の優しさに心打たれました』と言って、焼け焦げた兎の体を胸に抱いて、泣きながら月の世界へ連れて帰りました。そして、心優しい兎を月の宮殿に住ませ、永遠の命をお与えになりました。』それで、今でも月に兎の姿が見えるということですよ。

日本では、昔から困っている人がいたら、自分の事は忘れて、人を助けようとした話がたくさんあります。

東日本の地震と津波の大災害の時も、自分の身よりも人を助けようとした人がたくさんいて、世界の人々がびっくりして感動したんですよ。

皆さんも、幼稚園や学校で、困っている子や泣いている友達がいいたら、助けてあげてくださいね。

九月は、敬老の日や秋分の日(彼岸の中日)が祝日としてあります。これを機会に祖先への感謝の念をもつとともに、私達の祖先が何を願い、何を理想として生きてきたかにも思いをめぐらせたいものです。【秋分の日・彼岸の中日・秋季皇霊祭】九月二十三日 春分、秋分の日は、昼と夜の長さがほぼ同じになるので、中日と言いい、仏教では前後三日ずつ、計七日間を彼岸と言います。

彼岸とは仏教語で、生死の世界を此岸とし、涅槃(不生不滅の真澄)の世界を彼岸とし、菩薩真澄の境涯に住するものを舟とし、この身に乘って、此の岸から彼の岸にいたらしむるという願いを果すべき日とされました。元来仏教から来たことなのに、彼岸の行事は、日本だけにあつてインドにも中国にもありません。

中日(秋分の日)には太陽が真東から出て真西に入るので、この日、仏道に精進すれば西方浄土極楽へ往けるといふ訳です。そこで寺詣り、お墓参りをして先祖を偲びます。



中日には、草餅、牡丹餅、いなりずし、彼岸団子などをこしらえたり、お供えしたりします。私達の命の根であるご先祖の方々に感謝し、家族皆で手を合わせることは、先祖から受け継がれてきた大切な慣わしです。祖霊(みたま)をまつる慣わしは、古い日本の信仰と仏教思想がむすびついたものです。これと同じ意味の大きなお祭りが皇室でも代々行われています。

もともと皇室の祭祀は古く、仏式をもってされていましたが、明治初年に神仏分離が強行されてからは、毎年、御歴代天皇をその御命日ごとに祭っておられました。しかし、百二十一代という御歴代天皇を仮に平均して祭ることができたとしても月十回という大変なことになり、そのため、明治十一年に、毎年春秋彼岸の二季に盛大に皇霊をお祭りされるようお定めになりました。(皇霊祭)

この民間の彼岸の先祖供養の慣行を神仏云々にこだわることなく、宮中祭の骨幹に組み込まれたことは、祖先祭祀における君民一体の事実として、心あたたまる尊さを感じます。

また、同じ日、宮中の神殿において、皇室・国家・国民の守護神である天神地祇・八百万の神の神恩に感謝し、皇室と国民の幸福と繁栄を祈願される神殿祭が行なわれます。

神殿祭と皇霊祭を同日に行うべく定められたことも、敬神と崇祖が一体不離なる国風として重要な意義をもつものであります。

宮廷の年中祭儀はどれひとつみても、神武建国以来の理念が連綿と受け継がれており、その奥深さ、尊さに驚かされます。

子育てワンポイントアドバイス 言葉の力



「生命の教育」では、すべてのものは、コトバによって作られていると教えられています。「幸せ」「元氣」「ありがとう」と言うだけで、明るいい心になります。逆に「つらい」「苦しい」「しんどい」の言葉を使うだけで、暗くなり力が抜けてしまいます。言葉(コトバ)には創化力があります。生命の教育誌に日頃何気なく使う言葉に言葉が宿っているとき書かれています。

「行ってきます」には、「今から出かけます。」そして、「帰ってきます。」を合わせた言葉です。

「行ってらっしゃい」は、「行って、無事に帰ってきて下さい」という願いがあります。

また、「ただいま」は「行ってきます」の約束を果した言葉です。

「おかえりなさい」は無事に帰ったことに対しての「約束を守って帰ってきてくださった。ありがとう」の感謝の言葉です。

「行ってらっしゃい」の言葉によって、子供は守られているのだと書かれています。

優しく明るい言葉が響かせて、子供達に挨拶や言葉かけをしてくださいね。(甲斐敬子)



和歌コーナー

なるおはま うきわをもつておよいだよ

おなががすいて アイスをたべた

年長 M・S

☆なるおはまにかぞくでおよぎにいつて楽しかった



たでしようね。

なつやすみ おおくのじまに いったんだ

うさぎがいつぱい へいわになった

年長 H・H

☆大工野島は、うさぎの島で有名ですね。うさぎがたくさん見られてよかったですね。

うしろがわ こうちのかわだよ

ながされた うきわにのつて きもちよかつた

年長 K・S

☆高知の川で、およいだんですね！川の流れの中で泳ぐのは楽しいですね。

なつやすみ おおくのじまにいったんだ

むかしはいつぱい どくガスあつた

小学三年 H・A

☆どくガスはこわいですね。世界が平和でありますように：)

チアの合宿 たのしかったよ 二日間

また行きたいな チアの勉強にね

小学三年 M・A

☆愛子ちゃんは、チアをがんばっているのね。

なつやすみ おきなわへ行った ひこうきで

さかなやかめが たくさんいたよ

小学四年 Y・Y

☆沖縄へ行っていいなあ。楽しい思い出



こなりましたね。

今月の論語

しのたまわ

子曰く、

みち ことろざ とく よ

「道に志し、徳に拠り、

じん よ げい あそ

仁に依り、芸に遊ぶ」

(現代語訳)

人は正しい道(みち)を身につけようと求め、(それに

よつて得た)徳(とく)という高い品性(ひんせい)に基づき、(そ

とく なか さいこう かし じん じんげん

の徳の中で最高の価値(かち)ある仁(じん)という人間

愛(あい)をもつて、(その上(うえ)で、豊かな)教養(きょうよう)の世界

を(たの)楽しむこと(が大切)なのです。」

理想を持つ。きまりを守る。思いやりの心を忘れない。音楽やスポーツ、何でも興味を持ってやってみる。このようなことを心がけて、毎日過ごしたら、きつと自分の目指す理想の人に近づけるにちがいありません。

「親子で楽しむこども論語塾」(明治書院)より

次回は、十月二十八日(土)です。

西宮市中央公民館四階 四〇一室

(文責・藤波)

